カリキュラムシート

分類番号 A502-170-3

訓練分野	機械系	訓練コース	生産情報のＸＭＬによるデータ連携手法
訓練対象者	生産設備・生産システムの設計業務に従事する技能･技術者等であって、指導的・中核的な役割を担う者又はその候補者		
訓練目標	生産設備・生産システム設計の高付加価値化をめざして、生産現場（工場の装置）とオフィスとのデータ連携を例に、実際の機械装置のデータをＸＭＬデータとして収集し、そこから得られる様々な情報をＷｅｂサービスによって共有化するまでの一連の流れを習得する。		

教科の細目	内　　容	訓練時間	うち実習・まとめ
		(H)	(H)
１．ＩＴ化の必要性とＸＭＬデータ化の重要性	（１）オフィス情報とプロセス情報を接続する有効性について	1.0	
	（２）ＸＭＬデータベースの利用の広がり		
	（３）生産情報をＸＭＬデータ化するメリット		
２．ＸＭＬ概要	（１）ＸＭＬの型定義	5.0	5.0
	（２）ＸＭＬ文書の構造変換など		
	（３）ＸＭＬプログラミングの構造について		
３．機械設備情報の共有化実習	（１）機械設備・生産情報の流れ	5.5	3.0
	（２）ＰＬＣを例に生産情報を取得する手段について		
	イ．生産情報のやり取りを行うＯＰＣなど		
	（３）ＯＰＣを使った生産設備・機械設備データ（ＰＬＣ内データ）		
	の取得実習		
	（４）共有化の手段・種類について		
	（５）ＸＭＬ　Ｗｅｂサービスの特徴・機能		
	（６）生産設備情報のデータ共有化実習		
４．生産情報の共有化された情報の連携実習	（１）共有された情報の取扱い・データ連携について	5.5	3.0
	（２）共有情報の文書化のためのＸＭＬによるデータ入力フォームの作成実習		
	（３）共有化情報によるツールを用いた設備監視画面の作成実習		
５．まとめ	（１）まとめ	1.0	1.0
	（２）質疑応答		
	訓練時間合計	18.0	12.0

使用器具等	ハードウェア：パソコン、ＰＬＣ ソフトウェア：ＯＰＣサーバ／クライアント、ＸＭＬ対応ツール
養成する能力	新たな品質の創造又は製品を生み出すことができる能力